

ど…童貞…を…卒業させて欲しい…って

部下から筆おろしを懇願された王元姫――

貴方…何を言ってるか分かってるの？

三国を見渡しても貴女ほどの女性は見当たりません！
無礼を承知で！
どうしてもこの思いを誤魔化す事はできず！

わ…
わかったから落ち着いて！

お願いします!!!

すごい情熱…
無茶な言い分なのに心が動いてしまう

困るわ…

でも子上殿以外となんて…
ああ…どうすれば――

押し切られた

ありがとうございます！
身に余る光栄!!

しっ
静かにっ！

それにそんなに焦って腰を動かしては駄目！
もつと相手の事も考えないと…

は…はひっ！

結局、熱意にほだされて身体を許してしまうなんて…はしたない♡

